55. 縞及び格子のデザインについて（第2報）

名古屋市立女子短大　高橋　春子

1. 衣服に使用される縞及び格子の柄は，その時の流行とか，個人の嗜好によって色及び幅が異なる。これを洋服のデザインに利用した場合，その美的効果をあげるために，視覚生理学及び視覚心理学の立場から検討しようと，本研究を企画した。第1報に引き続き，縞の太

さ，対比，明るさ，縦縞，横縞，格子などの条件によった場合の面積効果について検討した。

2. 実験1　縦縞，横縞，格子ともに正方形で同一面積とした。資料の色彩，縞幅，資料面の照度，照明光源は自然光にて第1報と総てひとしくした。測定距離は第1報の縞の見え方の基準に基ずいて，各縞の明視できる限界距離を求め，その距離にて縦縞，横縞，格子の比較をした。

実験2　縞，格子の面積効果について，実際のワンピースの前表面に相当する面積の資料にて，実験1と同じ条件にて比較した。

3. 縦縞と横縞の比較については，細い縞は，照度，縞柄の対比の相異があっても，面積の変化はなく，1m以上の太い縞は錯視により，縦縞の面積が幅広く見える。

縞と格子の比較については，その差が明確につかみ難く，縞幅，格子幅の大になるに従って，相異が明らかとなり，縦縞より格子がやや幅広く見える程度である。